

北山だより

北山湿地は、岡崎市自然環境保全条例に基づく自然環境保護区に指定されています。湿地およびその周辺でのすべての動植物の採取等の行為は禁止されています。これに違反した場合は、30 万円以下の罰金が科せられる場合があります。貴重な自然環境の保護にご協力ください。

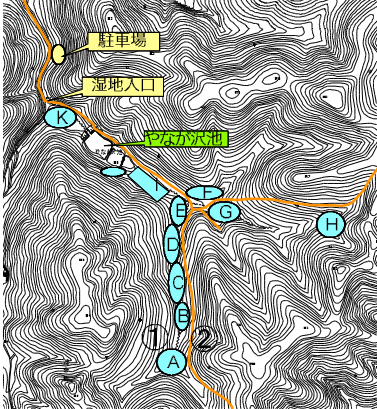
北山湿地を守る活動

【5 月の作業内容 (16 日(土)9 時 ~ 12 時(参加 13 人))】①A 湿地北側の旧見晴台撤去②A~B 湿地間の木橋架け替え



コックパネウツギ

今回は作業開始前に、湿地周辺のゴミを拾いました。これは、生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10) に向けての事業の一環で、愛知県が 6 月 30 日まで実施している県民参加の県内一斉クリーンキャンペーンに協賛したもの♣ゴミは必ず持ち帰ってください♣今回より、A 湿地にあるもうひとつの見晴台の付け替えが始まりました。土台が腐ってきて危険となった見晴台を撤去し、プラスチック杭を基礎として道板を乗せた新しい工法です♣この工法による新しい木道や見晴台は、来訪者から「立派だね」「誰が作ったの」などとなかなか好評♣旧見晴台は、徐伐などで発生した太い幹を組んだもの。腐食しているとは言え、どっしりとした丸太はけっこう重い♣作業している足



下にはモウセンゴケが。足場にも気を配りました♣撤去中の丸太からマムシが！どうやら彼の家だったようですが、マムシはおとなしい生き物。丁寧に退去いただきました♣A~B 湿地間に架かる小さな木橋も老朽化。これもいずれは付け替えますが、まずは応急処置として撤去された旧木道を再利用して架け替えました♣作業途中に雨足が強くなったため中止。雨が降ったら観察会、という申し合わせ通り、北山湿地の奥に広がる山林を歩きました。皆さん保全活動者から一転、自然好きのオジサン・オバサンとなって楽しく散策しました。

自然観察会を開催しました

岡崎市は 6 月 13 日(土)9 時より、北山湿地自然観察会を開催しました。北山湿地では、春と秋、そして 6 月の年 3 回、観察会が開かれています。この日の参加者は 22 人。これにサポ



ート役のおかげ湿地保護の会会員 8 人が加わりました。講師を務められた大平仁夫先生 (農学博士)、千賀敏之先生 (元新編岡崎市史調査委員) より、湿地特有の生き物や植物の具体的な特徴や生息環境など興味深いお話をうかがいながら、春から夏へと移り変わろうとしている北山湿地の自然を楽しみました。ハッチョウトンボをはじめとするトンボ類、ヒメタイコウチ、クラバハンノキ、バイカツツジ、トウカイコモウセンゴケ……。

参加者は、日常生活とは切り離された多種多様な動植物の世界に浸り、童心に返ったように目にした一つ一つに関心を示しながら、メモしたり写真を撮ったりしていました。先生方からもお話いただいた生物多様性の重要性を、今回の観察会での体験を通じて理解いただき、岡崎市の自然環境を守る大切さを考えていただくよい機会になりました。



ササユリがお出迎え

ハッチョウトンボは今年もたくさん飛んでいます。出現期は 5 月下旬~9 月ころまで。



ハッチョウトンボは今年もたくさん飛んでいます。出現期は 5 月下旬~9 月ころまで。

《環境シンポジウム開催》 6月27日(土) せきれいホール(朝日町)で13時30分より。定員500人(先着順)。入場無料ですが整理券必要。分子生物学者の福岡伸一氏による基調講演「生物多様性を考えるキーワード、それは“動的平衡”」ほか。パンフレットあり。申し込み・問い合わせは岡崎市環境総務課地球温暖化対策班まで。※森の駅7月のプログラムは市政だより6月15日号または水とみどりの森の駅ホームページで。

北山観察会に参加して

6月13日の観察会参加者へアンケートを実施。それぞれのご感想をまとめました。

《良かった植物》トウカイコモウセンゴケ、バイカツツジ、サクラバハノキ、ササユリ《良かった生き物》ハッチョウトンボ、シマアメンボ、モノサシトンボ、ヒメタイコウチ、ムカシヤンマ▼植物や樹木が多く見られて良かった▼名前などをお話してもらい参考になった。また



【茅葺屋敷(千万町町)に設置された水田魚道】同屋敷で活動する「じさんじょの会」が、愛知県が実施するCOP10関連のモデル事業参加団体に選ばれ、屋敷裏の水田に設置。小川から魚道をさかのぼり、生き物の宝庫だったかつての水田が復活するのか、今後の調査が楽しみです。

時々来てみたい▼地球温暖化が北山湿地にも影響が出ているのではと心配▼ボランティアの方々の努力で年々環境が良くなっていると思う▼湿地を遠くからしか

見られないので近くへ行ける橋(木道)を作ってほしい▼初めて来たが、いろいろ丁寧に説明してもらえて良かった▼ハッチョウトンボのかわいらしさに感激した▼整備されていて良かった▼興味深いことが多く大変良かった▼珍しいバイカツツジの花を見られて感激した▼駐車場のブルーシートと資材を撤去してほしい▼説明する人の近くにいないと、説明と現場が一致しない▼自然が豊かに残っていることに感激した▼名前がわかると楽しい。ポイントに名前がわかるプレートをお願い。

北山湿地入り口に設置された、来訪者へのアンケート投函ポスト。なんとここに、鳥が巣を作っていました。設置して2年余り経ちますが初めてのこと。ミズゴケを寄せ集めた小さな巣でオオルリと思われるのですが、確認はされていません。急ぎよ周りを柵で囲い立ち入り禁止としました。アンケートを回収できなくなったのは残念ですが、野鳥保護のため、そっと見守ってください。

アンケートを回収できなくなったのは残念ですが、野鳥保護のため、そっと見守ってください。



【鳥川ホタルまつり】6月13日(土)、全校児童6人の鳥川小学校に450人が集まりました。児童によるホタル保護活動発表などの後、ホタル観察会を開催。1200匹余りが飛び交い、今シーズンのピークを迎えました。

「鳥川ホタルの里」(鳥川町)では、今年も順調にゲンジボタルが光の乱舞を見せて訪れた人たちを喜ばせています。今年は5月の終わり頃から姿を見せ始め、6月上旬には400~700匹ほど、中旬になると1100~1400匹ほどまで増えました。6月いっぱい楽しめますので、お早めに。晴れた日の20時~21時ころなら確実に見られます。(以上は鳥川小学校ホームページを参考。)



【「自然ふれあい地区」に指定されたササユリ群生地】岡崎市自然環境保全条例に基づき指定された同地区は「かたのササユリの里育成会」により保護・管理されています。群生地内には入れません。地域のシンボルであるササユリを大切に。

岡崎のトンボたち①

ムカシヤンマ【大きさ65~72mm、成虫出現期5月~7月】原始的な特性を持った大型のトンボで日本特産種です。成虫は木の幹等に羽根を広げたま張り付いた格好で止まり、時には人の体にも止まることがあります。幼虫は、常に湧水がしみだす斜面の湿ったコケの中にトンネルを掘って住み、成虫になるのに4年ほどかかるといわれています。

ヤマサナエ【大きさ65~71mm、成虫出現期4月~7月】最も普通に見られる大型のサナエトンボで日本特産種です。平地から低山地の流れのある水域に生息し、成虫は流れに沿った林道でよく見られます。(文と写真／おかげさ湿地保護の会 山本英治)

